

授業科目名	現代アート論	担当教員	小林 瑠音
必修の区分	選択		
単位数	2 単位		
授業の方法	講義		
開講年次	3 年 第 3 クォーター		
講義内容	本講義では、現代アート史のなかでも、特に 1990 年代以降注目を集めてきた「ソーシャリー・エンゲージド・アート」（社会関与型の芸術）をとりあげ、芸術が美術館やギャラリーを飛び出し、地域コミュニティに直接介入しながら社会的課題にアプローチする近年の世界的動向について概観する。 とりわけ、日本において全国的な展開をみせてきた「アート・プロジェクト」の歴史的変遷と特徴を、海外の事例と比較しながら論じていく。また、日本の現代アートを取り巻く社会・政治・文化的現状を、「アート・マーケット」および「表現の自由」という切り口から考察する。		
到達目標	・「現代アート」が発展してきた歴史的経緯を理解するとともに、それが（特に日本において）孕む可能性と問題点について自ら考察する。 ・日本においてアートプロジェクトが発展してきた経緯と特徴について理解する。 ・将来アート・マネージャーなどとして、アートの現場に関わる時に必要とされる社会・政治・文化的問題意識を醸成し、それらに対する自分の意見を簡潔に述べることができる。		
授業計画	1) イントロダクション：現代アートとは 2) 映像鑑賞ー「アートのお値段」 3) 脱物質化：コンセプト、関係性、参加 4) 「ソーシャリー・エンゲージド・アート」（社会関与型の芸術）とは 5) アート・プロジェクト：日本における歴史的変遷（1950 年代～1980 年代） 6) 映像鑑賞ー「クリスト&ジャンヌ・クロード アンブレラズ」 7) アート・プロジェクト：日本における歴史的変遷（1990 年代～現在） 8) 文献講読ー藤田直哉(2014)「前衛のゾンビたちー地域アートの諸問題」 9) 文献講読ークレア・ビショップ(2016)『人口地獄ー現代アートと観客の政治学』 10) 表現の自由（1）：芸術と猥褻 11) 表現の自由（2）：美術館と規制 12) 最終レポート作成		
事前・事後学習	次の講義の前に、配布したプリントや参考資料を用いて前回の授業内容を復習すること。		

テキスト	適宜配布する。
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デイヴィッド・コッティントン（2020）『現代アート入門』松井裕美訳、名古屋大学出版会</li> <li>・山本浩貴（2019）『現代美術史 欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社</li> <li>・アメリア・アレナス（1998）『なぜ、これがアートなの？』福のり子訳、淡交社</li> <li>・藤田直哉（2014）「前衛のゾンビたちー地域アートの諸問題」藤田直哉編・著『地域アート：美学 制度 日本』堀之内出版、pp11-44.</li> <li>・クレア・ビショップ（2016）『人工地獄 現代アートと観客の政治学』大森俊克訳、フィルムアート社</li> <li>・美術手帖（2020）『緊急特集「表現の自由とは何か？芸術を続けるためのアイデアと方法」』美術出版社</li> </ul>
成績評価の基準	授業内の発言（20%）、授業内課題（40%）、最終レポート（40%）
履修上の注意 履修要件	特になし
実践的教育	該当しない。
備考欄	定員 50 名を超える場合は抽選とする。